

(別紙12)

大学「地（知）の拠点整備事業」ホームページ掲載用原稿記入フォーム

※以下の項目を参考の上で作成をしてください（様式は自由です）。

実習企業・機関	山形県庁 子育て推進部
実習期間	平成 30年 8月 20日 ～ 平成 30年 8月 24日
学生氏名	遠藤和也
実習プログラム	<ul style="list-style-type: none">・1日目（若者活躍・男女共同参画課） 若者活躍・男女共同参画課の業務概要説明 男女共同参画、青少年健全育成についての説明 やまがたウーマノミクス加速化プロジェクトチーム会議参加 若手職員との意見交換会 ・2日目（子育て支援課） 子育て支援課事業説明 厚生環境常任委員会傍聴 出会いサポートセンター見学 保育園幼稚園に関するデータ打ち込み、資料整理 ・3日目（若者活躍・男女共同参画課） チェリア(山形県男女共同参画センター)見学 マザーズジョブサポートセンター見学 若者活躍支援についての説明 若者支援コンシェルジュ事業ロケ参加 ・4日目（子ども家庭課） 子ども家庭課事業概要説明 山形学園現場見学 「子ども食堂」運営手引き調べ ・5日目（子ども家庭課） 「子ども食堂」運営手引き調べ・まとめ 「社会的養育推進計画」学習 医療費給付制度・不妊治療等についての説明 朝日学園現場見学 寒河江学園現場見学 女性活躍推進監兼次長との意見交流
学び・気づき (300字程度)	<p>今回の実習では県の事業や政策の説明が多くを占めた。事前学習では各課の仕事を調べる程度で詳しい事業や数字までは知らなかった。それぞれの事業には具体的な数値目標がありそれは県などが調べた膨大なデータと国や県の方針からたてられていると知った。説明を受ける中で女性の社会進出が求められる理由や労働力不足の課題など深く考えることができた。</p> <p>若手職員の方との交流会では公務員試験や県職員になった理由、働いてみての感想やギャップ、本音などを聴くことができ貴重な機会となった。新人でも配属1年目でも事業任せ仕事をしていかなければならなくなっていることには驚いた。若者支援の現場では、活躍する若者を応援する現場と社会復帰や更生を目的とした施設の両方を見て一口に若者といってもタイプに分</p>

	<p>かれたきめ細やかな対応が求められていると感じた。</p>
<p>今後に向けた 抱負 (200字程度)</p>	<p>今回のインターンシップでは私自身の県政に対する関心の薄さが浮き彫りになったように感じた。若者支援事業は私たち世代に向けられた事業であるにも関わらず初めて知るようなことが多くあった。これからはもっと関心を高く持ち、HPや新聞を見てそこから自分なりの意見や思いを持って考えを深めていきたいと感じた。</p> <p>公務員の仕事は複数同時並行であるため計画を立てて仕事をするのが重要であった。これは普段の私の生活にも将来の仕事にも繋がると思う。学生のうちから目標から逆算して計画を立てていく訓練をしていきたいと思う。</p>
<p>インターンシッ プをして気づい た、実習先の魅 力 (300字)</p>	<p>公務員に対してのイメージとして黙々と且つ地道な事務仕事というイメージがあった。確かに事務仕事が多くを占めているが、課ごとでチームとして良い事業にしていこうという姿を見ることができて素敵に思えた。県の仕事でも県庁の中で働く人もいれば各総合支庁や事業委託先で働く人など多種多様な仕事があることを直接感じて知ることができた。子育て推進部ということもあってかロッカーにお子さんの写真などが貼ってありとてもアットホームな雰囲気であった。休暇や子育て支援なども充実していてとても安心して働ける職場なのだと感じた。</p>
<p>写真 (1~3点)</p>	